



2023年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年10月5日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL https://www.bs11.jp
 代表者(役職名)代表取締役社長 社長執行役員 (氏名)近藤 和行
 問合せ先責任者(役職名)取締役 常務執行役員 (氏名)平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 定時株主総会開催予定日 2023年11月15日 配当支払開始予定日 2023年11月16日
 有価証券報告書提出予定日 2023年11月16日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期の連結業績(2022年9月1日~2023年8月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期	12,417	1.4	1,983	△17.2	2,015	△15.9	1,386	△13.3
2022年8月期	12,250	2.0	2,394	△10.3	2,395	△12.6	1,599	△14.3

(注) 包括利益 2023年8月期 1,386百万円(△13.3%) 2022年8月期 1,599百万円(△14.3%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年8月期	77.85	77.74	6.3	8.2	16.0
2022年8月期	89.84	89.74	7.6	10.1	19.5

(参考) 持分法投資損益 2023年8月期 -百万円 2022年8月期 -百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年8月期	24,756	22,606	91.2	1,267.93
2022年8月期	24,241	21,569	88.9	1,210.12

(参考) 自己資本 2023年8月期 22,581百万円 2022年8月期 21,544百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年8月期	1,336	△1,435	△757	13,599
2022年8月期	1,843	△50	△356	14,456

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00	356	22.3	1.7
2023年8月期	—	0.00	—	26.00	26.00	463	33.4	2.1
2024年8月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00		40.5	

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,982	△1.0	826	△25.6	826	△25.6	570	△24.6	32.01
通期	12,600	1.5	1,910	△3.7	1,910	△5.2	1,318	△4.9	74.01

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
新規 — 社（社名） — 、除外 — 社（社名） —

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数

2023年8月期	17,809,632株	2022年8月期	17,804,032株
2023年8月期	237株	2022年8月期	137株
2023年8月期	17,808,312株	2022年8月期	17,803,895株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(会計方針の変更)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって景気は緩やかに回復しております。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念等、海外景気の下振れが我が国における景気の下振れリスクとなっており、引き続き金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の増加が大いに期待されております。なお、テレビメディア広告費は、1兆8,019億円(前年比98.0%)となり、そのうち当社を含む衛星放送メディア関連の広告費は、1,251億円(前年比103.5%)となっております。(「2022年 日本の広告費」(株電通調べ))

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、コンテンツの価値最大化を目指しております。放送事業収入だけではなく、配信ビジネスやイベントの実施といった非放送分野の事業開発にも取り組みながら、開局15周年に伴って制作、放送された特別番組をはじめ、効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

[レギュラー番組]

2022年10月の番組改編では、特別番組の放送で既にご好評いただいております『中山秀征の楽しく1万歩!小京都日和』をレギュラー番組として放送開始いたしました。また、歴史教養番組『偉人・素顔の履歴書』は6月に『偉人・敗北からの教訓』として、番組の切り口を変え、より多くの歴史ファンに満足いただけるよう内容もパワーアップして放送しております。不定期放送番組として、角野卓造さんと近藤芳正さん出演の『おやじ京都呑み』もご好評いただいているほか、4月の番組改編では『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』が毎週のレギュラー番組として復活し、放送5年目に突入した『八代亜紀 いい歌いい話』では10月に行われたパリ公演の模様を新春2時間スペシャルとして放送する等、コンテンツの拡充に努めました。

また報道番組では、『速報ニュース インサイドOUT』の放送開始時間を統一し、より見やすい編成にいたしました。『報道ライブ インサイドOUT』では、8月に「ニッポンの宿題」と題し、スタジオセット等の演出を変え、外交・安全保障・環境問題といった様々なテーマに沿って番組を放送する等、内容をより一層充実させて放送いたしました。

『ディスカバリー傑作選』では、『名車再生!』『魅惑のアクアリウム』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選し放送しているほか、ドラマジャンルの拡充にも努め、SNS等で大きな反響を得た中国ラブロマンス時代劇『山河令』等のアジアドラマや、新設された「ドラマアンソロジー」枠でご好評いただきました『チーム・バチスタ2 ジェネラル・ルージュの凱旋』等、日本ドラマも多数放送いたしました。

[特別番組]

経営ビジョンである“豊かで 癒される 教養・娯楽番組”として、当期は春・夏・秋・冬と季節ごとに四季折々の京都の魅力をお届けする番組を(株)京都放送と共同制作し、放送いたしました。また、開局15周年記念特別番組として、開局以来初の自社制作オリジナルドラマ『恋は50を過ぎてから』を放送し、その後、当番組は「2023年日本民間放送連盟賞番組部門テレビドラマ 優秀賞」を受賞いたしました。また、夏の花火・祭り番組では、「感動をテレビで!全国の夏祭り生中継」と銘打ち、『生中継!青森ねぶた祭 ほとばしれ!北国の魂』、『生中継 第1回ぎふ長良川花火大会』等、日本全国各地の花火や祭りを生中継でお届けいたしました。

スポーツ番組では昨年に引き続き、女子ソフトボール「JD.LEAGUE」の開幕戦を放送したほか、2022年11月と2023年7月には『ブンデスリーガ ジャパンツアー』を放送。更に、若き侍ジャパンが躍動した『WBSC U-18 ベースボールワールドカップ2022』や、女子ソフトボール元日本代表の山本優さんと、ビックカメラ高崎に所属し、2022シーズン東地区MVPに輝いた濱村ゆかりさんらが出演し、スポーツ×地方×観光が一体となった番組『スポーツで未来をつなぐ fromおおい』も放送いたしました。

このほか、(株)テレビ和歌山との共同制作番組『弘法大師 空海とともに~1250年の祈り~』等、ローカル局とのコラボレーション施策も積極的に実施したほか、毎年恒例の、山の日にちなんだ特別番組も放送いたしました。

[アニメ関連事業]

「ANIME+」枠では、製作委員会参画作品を含むアニメ関連番組を、毎クール約40タイトル放送しております。このほか、「アニメプラス」枠では「BS11ガンダムアワー」と題し、珠玉のガンダムシリーズを放送しております。年末年始には、主催した『アニメロサマーライブ2022 -Sparkle-』をテレビ独占放送する等、特別編成を行いました。加えて、アニメソング番組『Anison Days』、エンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』等、幅広い年齢層のファンのニーズにお応えできるよう、様々な切り口でアニメ関連番組を放送いたしました。

また、『AnimeJapan2023』や『とちてれ☆アニメフェスタ2023』等のアニメイベントへの出展や協賛等、イベント事業をはじめとした幅広い展開を実施いたしました。

[配信コンテンツ]

当期の重点施策である「コンテンツ力の強化」、「コンテンツの有効活用による価値最大化」、「『非放送分野』の拡大」を目的とし、当社独自の動画配信サイトBS11+（プラス）のサービスメニューをリニューアルし、自社制作番組及び関連コンテンツのネット配信強化、配信プラットフォーム拡大を実施いたしました。

BS11+では、3月に全番組見放題プランに統一し、1月より『報道ライブ インサイドOUT』の見逃し配信、5月からは㈱毎日映画社との協業による昭和の貴重な映像をお届けするコンテンツ『昭和あの日のニュース』の配信を開始いたしました。また、即興テイストのクッキングドラマ『ボクの即興ごはん～竹財輝之助のひとりキッチン～』等をはじめ、様々なジャンルのオリジナルコンテンツの配信も実施いたしました。

また、BS11公式YouTubeでは、放送では紹介できなかったエピソードやアフタートーク満載の番組派生コンテンツ『偉人・敗北からの教訓・こぼれ囁』を配信したほか、社内企画募集で選出されたコンテンツ『アドベンチャーワールドのパンダたち』、YouTubeで話題のピアニスト「みやけん」とコラボした『リコリス・リコイル×黒板アート×ピアノ』、『ようこそ！中国ドラマの“沼”～鶴唳華亭から知る魅力～』を制作、配信いたしました。更に、グループ会社である㈱国土社の児童書を映像化した『歌で聴く絵本「ようかいむら」シリーズ』や、アニメジャンルからは、㈱文化放送のインターネットラジオ「超！A&G+」とのコラボ企画『ワールドダイスターRADIO☆わらじ』も配信いたしました。

引き続き、U-NEXT、FOD、FANYチャンネル、ビデオマーケット等、外部プラットフォームでの課金配信に加え、5月からはTVerでの見逃し配信を開始する等、より多くの方々にBS11のコンテンツに触れていただけるよう配信プラットフォームの拡大に努めてまいります。

[その他事業・マルチ展開施策等]

「コンテンツの有効活用による価値最大化」、「『非放送分野』の拡大」という当期の重点施策を基に、番組関連グッズのネット販売等、様々な施策に取り組みました。BS11公式通販サイト「BS11SHOP」では『大人のバイク時間 MOTORISE』のオリジナルグッズや、『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』に出演中の太田和彦さん監修「奈良・吉野杉 間伐材コースター ねんりん」等の販売を開始。また、リアルイベント・生配信・アーカイブ配信・特別番組放送とマルチに展開させた『貴公子たちの音楽会 Vol.2～春（スプリング）～』も前回に引き続き大変ご好評いただきました。

このほか新たな試みとして、BS11+で配信されているコンテンツの魅力の特集記事でお伝えするサイト「BS11+トピックス」を7月にオープンいたしました。また、『ボクの即興ごはん～竹財輝之助のひとりキッチン～』シーズン2ではタイアップ企業の商品を使ったオリジナルレシピを開発し、YouTubeでのインフォーマーシャルを通して商品購入ページへの誘導を図る取り組みを実施いたしました。更に、「令和五年 夏巡業 大相撲 恵庭場所」へ協賛する等、放送以外の様々な事業を展開いたしました。

今後も放送に加え、配信、その他事業等を通して幅広いニーズに応えることができるよう、努めてまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は 12,417,299千円（前期比 1.4%増加）となりました。営業利益は 1,983,485千円（前期比 17.2%減少）、経常利益は 2,015,123千円（前期比 15.9%減少）、親会社株主に帰属する当期純利益は 1,386,329千円（前期比 13.3%減少）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 515,354千円増加し、24,756,539千円（前連結会計年度末比 2.1%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が 856,693千円減少したものの、受取手形及び売掛金が 250,563千円、棚卸資産が 96,079千円、機械及び装置（純額）が945,131千円、流動資産のその他に含めて表示している未収消費税等が102,112千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ 521,744千円減少し、2,150,184千円（前連結会計年度末比 19.5%減少）となりました。主な要因は、短期借入金が 400,000千円、未払法人税等が 108,740千円減少したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 1,037,099千円増加し、22,606,354千円（前連結会計年度末比 4.8%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当 356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する当期純利益 1,386,329千円の計上に伴い 1,030,251千円増加したこと等によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ 856,693千円減少し、当連結会計年度末には 13,599,917千円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、1,336,351千円（前期は 1,843,212千円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払額 734,924千円があったものの、税金等調整前当期純利益 2,015,123千円の計上等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,435,388千円（前期は 50,960千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 1,403,122千円、無形固定資産の取得による支出 19,557千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、757,656千円（前期は 356,961千円の使用）となりました。これは主に、短期借入れによる収入 120,000千円があったものの、短期借入金の返済による支出 520,000千円、配当金の支払額 355,978千円等によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2022年8月期	2023年8月期
自己資本比率 (%)	88.9	91.2
時価ベースの自己資本比率 (%)	69.6	64.7
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	27.5	7.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	475.5	322.0

自己資本比率: 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率: 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率: 有利子負債/キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ: キャッシュ・フロー/利払い

- (注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により算定しております。
2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数（自己株式を除く）により算出しております。
3. キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」を利用しております。
4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。
5. 利払いにつきましては、連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

(4) 今後の見通し

当連結会計年度における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって景気は緩やかに回復しております。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念等、海外景気の下振れが我が国における景気の下振れリスクとなっており、引き続き金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

次期の見通しにつきましては、このような環境下、テレビ広告収入において営業力の強化と良質な番組制作、効果的な広告宣伝により広告媒体としての価値を向上することで、タイム・スポット収入の増加と周辺事業収入の強化を図ってまいります。一方、費用面では、視聴者の皆様に喜んでいただける魅力的な番組づくりと番組編成を行いながら番組関連費用の効果的な使用とその他の費用の削減に努めることで費用効率を更に高めてまいります。

以上により、2024年8月期の連結業績予想は、売上高126億円（前連結会計年度比1.5%増）、営業利益19億1千万円（同3.7%減）、経常利益19億1千万円（同5.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益13億1千8百万円（同4.9%減）を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRS（国際財務報告基準）適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当連結会計年度 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,456,611	13,599,917
受取手形及び売掛金	2,074,459	2,325,022
棚卸資産	430,350	526,429
その他	122,567	218,399
流動資産合計	17,083,989	16,669,770
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,266,730	2,226,406
機械及び装置（純額）	341,550	1,286,682
土地	4,034,756	4,034,756
その他（純額）	63,204	82,717
有形固定資産合計	6,706,242	7,630,563
無形固定資産	84,219	75,296
投資その他の資産		
投資有価証券	104,750	104,750
繰延税金資産	187,308	188,501
差入保証金	31,786	31,786
その他	42,889	55,870
投資その他の資産合計	366,734	380,908
固定資産合計	7,157,195	8,086,769
資産合計	24,241,184	24,756,539

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当連結会計年度 (2023年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	625,550	696,741
短期借入金	500,000	100,000
未払金	425,576	469,572
未払費用	274,655	207,663
未払法人税等	377,558	268,817
賞与引当金	30,000	30,000
その他	315,188	245,798
流動負債合計	2,548,529	2,018,593
固定負債		
退職給付に係る負債	99,007	108,789
その他	24,392	22,801
固定負債合計	123,399	131,590
負債合計	2,671,929	2,150,184
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,186,990
資本剰余金	3,517,726	3,520,780
利益剰余金	13,843,269	14,873,521
自己株式	△143	△234
株主資本合計	21,544,789	22,581,057
新株予約権	24,466	25,297
純資産合計	21,569,255	22,606,354
負債純資産合計	24,241,184	24,756,539

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
売上高	12,250,430	12,417,299
売上原価	5,937,481	6,485,666
売上総利益	6,312,949	5,931,633
販売費及び一般管理費	3,918,483	3,948,148
営業利益	2,394,465	1,983,485
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,169	1,177
寄付金収入	—	32,382
その他	3,669	2,420
営業外収益合計	4,839	35,980
営業外費用		
支払利息	3,876	4,150
その他	71	192
営業外費用合計	3,948	4,342
経常利益	2,395,357	2,015,123
税金等調整前当期純利益	2,395,357	2,015,123
法人税、住民税及び事業税	794,091	629,987
法人税等調整額	1,757	△1,193
法人税等合計	795,848	628,794
当期純利益	1,599,508	1,386,329
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,599,508	1,386,329

連結包括利益計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
当期純利益	1,599,508	1,386,329
包括利益	1,599,508	1,386,329
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,599,508	1,386,329
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)

(単位：千円)

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	4,183,936	3,517,726	12,599,839	△143	20,301,358	14,812	20,316,171
当期変動額							
新株の発行 (新株予約権の行使)					—		—
剰余金の配当			△356,077		△356,077		△356,077
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,599,508		1,599,508		1,599,508
自己株式の取得					—		—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						9,653	9,653
当期変動額合計	—	—	1,243,430	—	1,243,430	9,653	1,253,083
当期末残高	4,183,936	3,517,726	13,843,269	△143	21,544,789	24,466	21,569,255

当連結会計年度(自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)

(単位：千円)

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	4,183,936	3,517,726	13,843,269	△143	21,544,789	24,466	21,569,255
当期変動額							
新株の発行 (新株予約権の行使)	3,053	3,053			6,107		6,107
剰余金の配当			△356,077		△356,077		△356,077
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,386,329		1,386,329		1,386,329
自己株式の取得				△91	△91		△91
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						831	831
当期変動額合計	3,053	3,053	1,030,251	△91	1,036,267	831	1,037,099
当期末残高	4,186,990	3,520,780	14,873,521	△234	22,581,057	25,297	22,606,354

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,395,357	2,015,123
減価償却費	351,951	509,295
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△60,585	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	15,000	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	9,898	9,782
受取利息及び受取配当金	△1,169	△1,177
支払利息	3,876	4,150
売上債権の増減額 (△は増加)	△8,464	△250,563
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△66,831	△96,079
仕入債務の増減額 (△は減少)	125,221	71,191
未払金の増減額 (△は減少)	5,318	45,580
未払費用の増減額 (△は減少)	7,099	△66,992
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△615	△89,142
寄付金収入	—	△32,382
その他	114,742	△76,920
小計	2,890,797	2,041,866
利息及び配当金の受取額	1,169	1,177
利息の支払額	△3,876	△4,150
寄付金の受取額	—	32,382
法人税等の支払額	△1,044,877	△734,924
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,843,212	1,336,351
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△21,598	△1,403,122
無形固定資産の取得による支出	△18,568	△19,557
その他	△10,793	△12,708
投資活動によるキャッシュ・フロー	△50,960	△1,435,388
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	120,000
短期借入金の返済による支出	—	△520,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△947	△1,590
配当金の支払額	△356,013	△355,978
その他	—	△87
財務活動によるキャッシュ・フロー	△356,961	△757,656
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,435,290	△856,693
現金及び現金同等物の期首残高	13,021,321	14,456,611
現金及び現金同等物の期末残高	14,456,611	13,599,917

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

当社グループには、BSデジタル放送事業以外の重要なセグメントがないため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
1株当たり純資産額	1,210円12銭	1,267円93銭
1株当たり当期純利益	89円84銭	77円85銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	89円74銭	77円74銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
(1) 1株当たり当期純利益	89円84銭	77円85銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,599,508	1,386,329
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,599,508	1,386,329
普通株式の期中平均株式数(株)	17,803,895	17,808,312
(2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益	89円74銭	77円74銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	20,037	24,020
(うち新株予約権(株))	(20,037)	(24,020)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。